

行方市スポーツ推進計画

誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも
スポーツに親しむことのできる「生涯スポーツ社会」の実現



平成28年3月

行方市教育委員会

はじめに

行方市では、全国的な傾向である少子高齢化や人口減少、合併後の地域コミュニティづくりなど、さまざまな課題があります。市制施行から10年が経過し、新たなまちづくりでは、年齢や性別、障がい等を問わず、市民の関心や適性に応じてスポーツに参画できるスポーツ環境の整備、スポーツを通した人と人との繋がりや健康づくりが求められています。

本県においては2019年に第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体2019」の開催、さらに2020年には56年ぶりにオリンピックが東京で開催されますが、本市においても、学校や地域におけるスポーツ機会の充実、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進、競技力の向上に向けた人材の育成等が期待されています。

スポーツは、体力の向上や健康の保持増進のみならず、協調や連帯の心やルールを守ることを通して規範意識を高めたり、人と人との交流や地域との結びつきを互いに強くする「絆」が育てられます。さらに、夢とその実現に向けて進む勇気や困難を乗り越える力を育むとともに、人々に感動と誇りを、地域に元気と活力をもたらすものと考えます。

行方市スポーツ推進計画は、国の「スポーツ基本計画」で描かれる、「スポーツを通じて全ての人々が幸福で豊かな生活を営むことができる社会」の考えを受け、行方市教育大綱に基づき、より行方市の実情にあったスポーツ推進の方向性を示すものです。基本理念の『誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことのできる「生涯スポーツ社会」の実現』のもとに、基本方針として、「ライフステージに応じた市民の運動やスポーツ活動の推進」、「スポーツ環境の整備と充実」、「スポーツ実践活動の推進」、「スポーツを通した人と人とのつながりと交流の推進」の4つの柱を掲げています。今後、それぞれの目標と具体的な施策等を示す中で、「生涯スポーツ社会」の実現に向けた取組を計画的・継続的に推進して参ります。

結びに、本計画策定に当たりまして、ご尽力いただきました行方市スポーツ推進審議会委員の皆様をはじめ、貴重なご意見をお寄せいただきました市民の皆様方、多くの関係者の方々に心より感謝申し上げます。

平成28年3月

行方市教育委員会教育長 正木 邦夫

本市のスポーツ振興施策を顧みて

平成 20 年 3 月に策定された、行方市スポーツ振興基本計画の実践にあたっては、以下の 6 つの施策により、地域スポーツの充実・発展を目指してきました。

平成 28 年度からの計画策定については、今までの成果や実績などを検証することにより、本計画づくりに生かし引き継いでいくこととします。

以下、施策体系ごとにまとめてみました。

(1) スポーツ情報の提供

市報や市ホームページを介して、多くのスポーツ情報を提供してきました。市報では、主に年間計画に沿った募集や大会結果を伝え市民の皆様の参画を促してきましたが、ホームページでは、リアルタイムでの PR など別角度からの情報提供の上積みが期待されています。

(2) スポーツ機会の充実

従来 of スポーツ競技に加え、軽スポーツやレクリエーション的な活動が見られてきました。今後は、スポーツと健康づくりを一体とした取り組みを増やしていくことが、課題だと考えます。

(3) スポーツ施設の整備充実

学校建設などにより、スポーツ施設は減少してきましたが、既存の施設の機能的な利用を図ってきました。今後の施設整備は、スポーツ施設が地域の活力を生み出すなどの付加価値を見出すことも必要だと考えます。

(4) 組織の育成・充実

平成 24 年 4 月に、総合型地域スポーツクラブ「なめがたふれあいスポーツクラブ」が誕生し、活動を展開しています。今後は、認知度を高めると共に運営体制や事業の取り組みを充実させていくことが、求められています。

(5) 指導者の育成・確保

総合型地域スポーツクラブにおけるクラブマネージャーなどは、配置されてきました。スポーツボランティアの役割は、今後障がい者スポーツにおいても、重要な存在となります。またスポーツ指導者が活動や資格を継続していくことや、連携していくことへの支援も課題です。

(6) ニュースポーツ等の普及・振興

運動が苦手な子供達でも、ゲーム性のあるニュースポーツには、興味を示す機会が多くあります。学校での取り組みの芽も出ています。また高齢者も含めたファミリースポーツにも「なめがたふれあいスポーツクラブ」が取り組んできました。興味関心をより一層高めていくことで、主体的にスポーツをする多くの市民を増やしていくことを考えています。

目 次

第1章 行方市スポーツ推進計画の基本的な考え方	4
1. 計画の背景と趣旨	
2. 計画の位置付け	
第2章 スポーツ推進の方向性	6
1. 基本理念	
2. 基本方針	
3. 基本目標	
計画の体系	8
第3章 計画推進のための施策	9
1. ライフステージに応じた市民の運動やスポーツ活動の推進	
(1) 子どものスポーツ	
(2) 成年のスポーツ	
(3) 高齢者のスポーツ	
(4) 障がい者の運動やスポーツ	
2. スポーツ環境の整備と充実	19
(1) スポーツ団体等の活動支援	
(2) 学校体育施設開放事業	
(3) 公共体育施設等の充実	
3. スポーツ実践活動の推進	22
(1) スポーツ団体の指導者・スタッフの育成支援	
(2) 競技スポーツの支援	
4. スポーツを通じた人と人との「つながり」と「交流」の推進	24
(1) スポーツ交流の充実・支援	
資料 市内運動場の地図	26
スポーツに関する市民意識調査結果	27
・一般市民のスポーツに関するアンケート結果	28
・市内小・中・高校生アンケート結果	33

第1章 行方市スポーツ推進計画の基本的な考え方

1. 計画の背景と趣旨

昭和36年に制定されたスポーツ振興法は、我が国のスポーツの発展に大きく貢献してきました。しかし、制定から50年が経過し、スポーツが広く国民に浸透し、スポーツを行う目的が多様化するとともに、地域におけるスポーツクラブの成長や、障がい者スポーツの振興、さらには、プロスポーツの発展、スポーツによる国際交流や貢献など、スポーツを取り巻く環境は大きく変化しています。

このような中、国はスポーツ振興法を50年ぶりに全面改定し、平成23年6月スポーツの推進のための基本的な法律として「スポーツ基本法」を制定し、平成24年3月には「スポーツ基本計画」を策定しました。

これをうけ、茨城県においては、平成27年3月「茨城県スポーツ推進計画」が策定されました。

本市においても、スポーツを通じて市民誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツを楽しみ、感動を分かち合い、交流できるまちの実現を目指して、本計画を策定することとしました。

2. 計画の位置付け

(1) 関連計画等

スポーツ基本法（文部科学省：平成23年8月）

スポーツ基本計画（文部科学省：平成24年3月）

茨城県スポーツ推進計画（茨城県：平成27年度～平成31年度）

行方市第2次総合計画（行方市：平成28年度～平成37年度）

行方市教育大綱（行方市：平成28年度～平成32年度）

行方市学校教育プラン（平成28年度～平成32年度）

行方市健康づくり計画（平成25年度～平成34年度）

行方市障害者基本計画（平成18年度～平成28年度）

行方市地域福祉計画（平成24年度～平成28年度）

行方市高齢者福祉計画・介護保険事業計画（平成27年度～平成29年度）

行方市子ども・子育て支援事業計画（平成27年度～平成31年度）

など。

(2) 性格および位置づけ

本計画は、関連計画などとの整合性を考慮しつつ、行方市が目指すスポーツ事業を推進するために、長期的、総合的な視点から、その基本的

方向を示すものです。

①本市スポーツ推進に関する基本的・総合的な計画です。

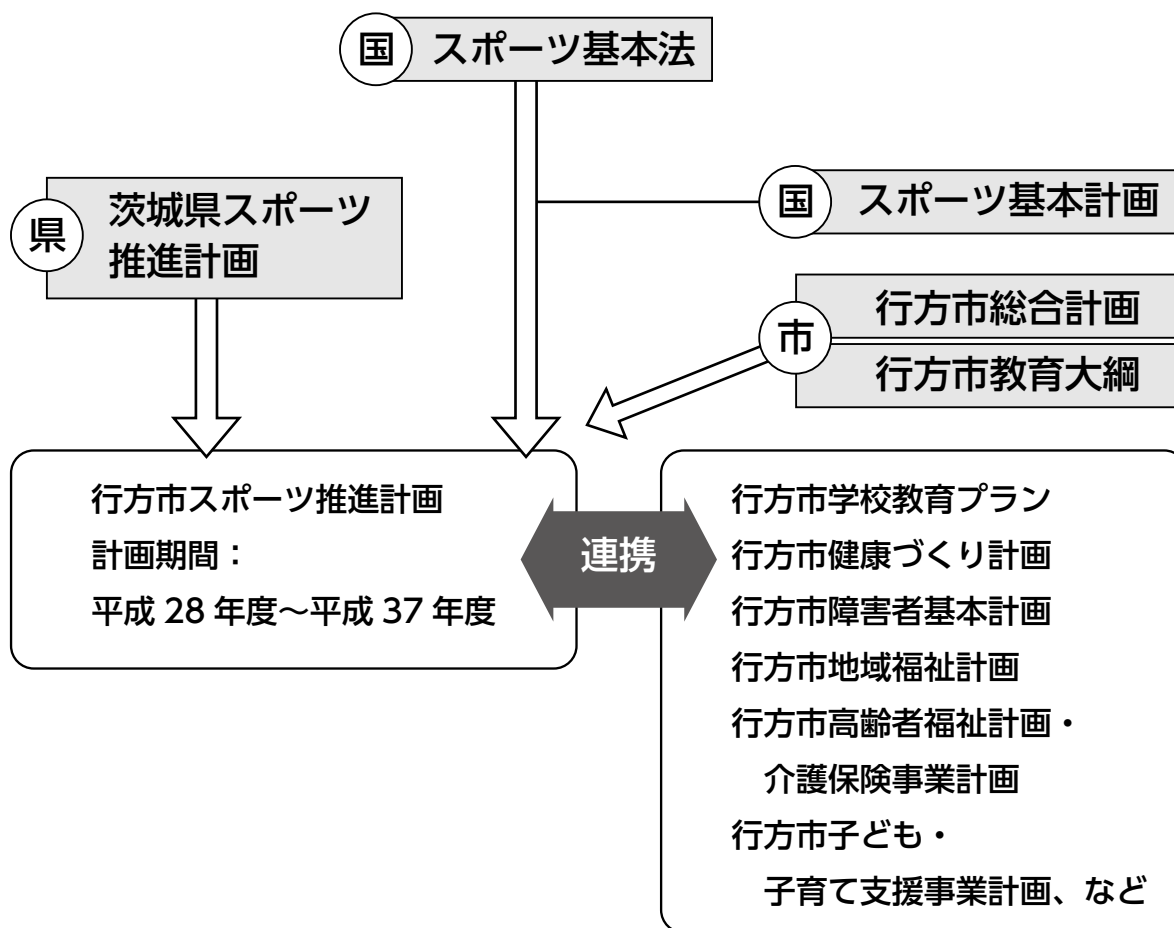
②スポーツ団体や市民に対し、主体的な参加を求めるものです。

③市民の生涯にわたるスポーツライフ及び健康の保持推進のための基本的方向を示すものです。

(3) 計画の期間

本計画の計画期間は、平成 28 年度から平成 37 年度までの 10 年間とし、今後の社会情勢の変化や計画の P D C A サイクルによって見直しを行いつつ進行を管理していきます。

図表 1



※ PDCA サイクルとは・・・計画 (plan)、実行 (do)、評価 (check)、改善 (act) のプロセスを順に実施するものです。改善 (act) で、評価 (check) の結果から、最初の計画 (plan) の内容を継続、修正、廃棄のいずれかにして、次の計画 (plan) に結び付けます。このプロセスを繰り返すことによって、計画の維持・向上および継続的な改善活動を推進するマネジメント手法です。行方市スポーツ推進計画では、PDCA サイクルにより、5 年後に見直しを行います。

第2章 スポーツ推進の方向性

1. 基本理念

誰もが、いつでも、どこでも、いつまでも
スポーツに親しむことのできる「生涯スポーツ社会」の実現

2. 基本方針

国の「スポーツ基本法」において、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」とうたわれ、全ての人々のスポーツ権の保障が明記されました。さらに「スポーツ基本計画」では、基本法の基本理念の実現を目指して、10年間の基本方針と5年間に実施する施策が示されています。

茨城県の「茨城県スポーツ推進計画」では、5年間に実施する施策が示されています。

本市では、「行方市スポーツ振興基本計画」を策定し、スポーツ振興の施策を展開してきましたが、これまでの考え方を踏まえながら、国・県の計画を参酌し、行方市教育大綱の基に、次の4つの項目を柱とし行方市の実情にあったスポーツ推進を計画的に進めていきます。

(1) ライフステージに応じた市民の運動やスポーツ活動の推進

幼児から高齢者まで（子ども、成人、高齢者、障がい者）、ライフステージに応じた多様な運動やスポーツ活動の機会の創出を図ります。

(2) スポーツ環境の整備と充実

全ての市民が「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しむことができる環境を整備します。

(3) スポーツ実践活動の推進

市民の多様化するスポーツニーズに応えるため指導者・スタッフを育成します。また、上位大会へ出場する選手・団体を支援します。

(4) スポーツを通じた人と人との「つながり」と「交流」の推進

幼児から高齢者まで、スポーツでの出会い、かかわり合い、つながり合いを通して、住民のスポーツによる交流・仲間づくりを進めます。

3. 基本目標

基本理念及び基本方針を踏まえ、基本目標を定めます。

- (1) すべての市民が、いつでも、どこでも、いつまでも体力や年齢、適性や健康状態、興味や目的に応じて、スポーツに親しむことができるようにします。
- (2) スポーツを通じて市民がつながり合い、交流が活発になるように、地域社会が連携・協働して地域のスポーツ環境を整備します。



上の写真は、市民運動会

計画の体系

基本理念：誰もが、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことのできる「生涯スポーツ社会」の実現

基本目標			
すべての市民が、いつでも、どこでも、体力や年齢、適性や健康状態、興味や目的に応じて、いつまでもスポーツに親しむことができるようにします。		スポーツを通じて市民がつながり合い、交流が活発になるように、地域社会が連携・協働して地域のスポーツ環境を整備します。	
基本方針（4つの柱）			
1.	2.	3.	4.
ライフステージに応じた市民の運動やスポーツ活動の推進	スポーツ環境の整備と充実	スポーツ実践活動の推進	スポーツを通じた人と人との「つながり」と「交流」の推進
<p>1 子ども 【目標】日常生活での運動遊びや、園内外、学校内外での運動やスポーツ活動の推進</p> <p>2 成人 【目標】運動やスポーツ活動への参加を促進</p> <p>3 高齢者 【目標】生涯スポーツが高齢者の生活の楽しみに</p> <p>4 障がい者 【目標】誰もが参加しやすく楽しむことができる運動やスポーツ活動の推進</p>	<p>1 スポーツ団体等の活動支援 【目標】スポーツ団体や、総合型スポーツクラブ（なめがたふれあいスポーツクラブ）活性化の促進</p> <p>2 学校体育施設開放事業 【目標】学校体育施設開放事業の推進</p> <p>3 公共体育施設等の充実 【目標】市民が日常的にスポーツに親しむ体育施設の整備確保</p>	<p>1 スポーツ団体の指導者・スタッフの育成支援 【目標】指導者の育成と活用の促進</p> <p>2 競技スポーツの支援 【目標】行方市スポーツ補助金事業の継続 児童生徒に優れた指導者からのコーチング機会の増加</p>	<p>1 スポーツ交流の充実・支援 【目標】スポーツの持つ魅力の多面性を多くの人と共有 スポーツを通じ「行方」を内外に発信 スポーツレクリエーション・運動会等を通じ世代を超えた交流の推進</p>

第3章 計画推進のための施策

計画の実現にむけては、施策ごとに目標を定め、実施していきます。

本市のスポーツ振興に関する情報を発信するとともに、市民のスポーツに関する意識調査を定期的実施することにより、市民のニーズを把握し、スポーツ推進事業に反映します。

1. ライフステージに応じた市民の運動やスポーツ活動の推進

(1) 子どものスポーツ

<現状と課題>

幼児期から小学生・中学生・高校生の時期においてスポーツは、生涯にわたってたくましく生きるための健康や体力の基礎を培うとともに、公正さと規律を尊ぶ態度や克己心を培うなど人間形成に重要な役割を果たすものです。

近年子どもたちを取り巻く環境は、塾通い、テレビゲーム・携帯機器の普及、遊び場の減少など、日常生活や自然の中で身体を動かす機会が減少しており、このことが体力・運動能力低下の一つの要因になっていると考えられます。また、積極的に運動やスポーツ活動に取り組む子どもとそうでない子どもの二極化が顕著に認められ、運動習慣が身に付いていない子どもに対する支援の充実が課題となっています。

このような中、子どもの体力・運動能力向上、スポーツ機会の充実には、幼児期からの取り組みや学校等でのスポーツの苦手な子どもへの対応などと共に、スポーツ少年団の児童の送迎に見られるような、保護者や地域の理解・協力が非常に重要となっています。

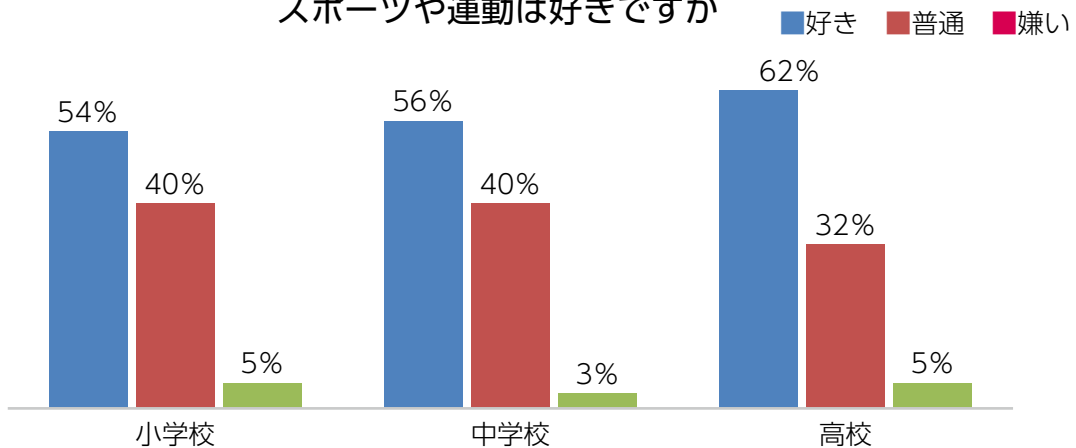
また、特に中学校の運動部活動においては、専門的指導者の不足のために十分な指導が受けられないなどの課題もあります。そのことは中学校卒業後のスポーツに対する意識や行動に大きな影響を与えます。すべての子どもたちが生涯にわたってスポーツに親しむことのできる一貫性のある指導体制の構築が求められています。

本年度実施した行方市内の小学生のアンケートでは、スポーツや運動が好き・普通が95%で、1年間体育の授業以外でスポーツや運動をしたことがあるが93%でした。このうち、1週間に3回以上スポーツや運動をした小学生は39%、また月に1～2回以下が20%ありました。

中学生のアンケートでは、スポーツや運動が好き・普通が95%で、1年間体育の授業以外でスポーツや運動をしたことがあるが97%でした。このうち、1週間に3回以上スポーツや運動をした中学生は71%です。

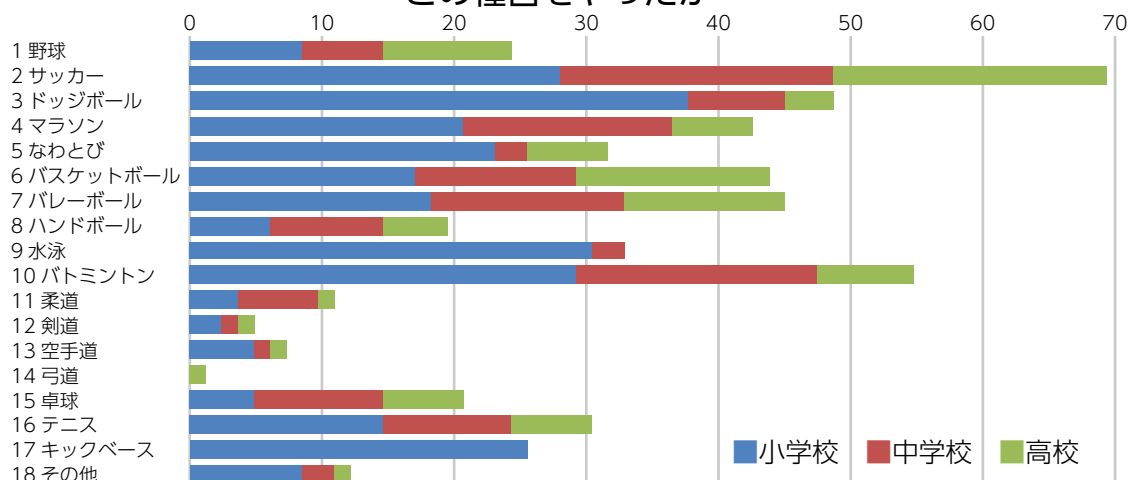
高校生のアンケートでは、スポーツや運動が好き・普通が95%で、1年間体育の授業以外でスポーツや運動をしたことがあるが78%であり、小中学生と比べると減少傾向にあります。

スポーツや運動は好きですか



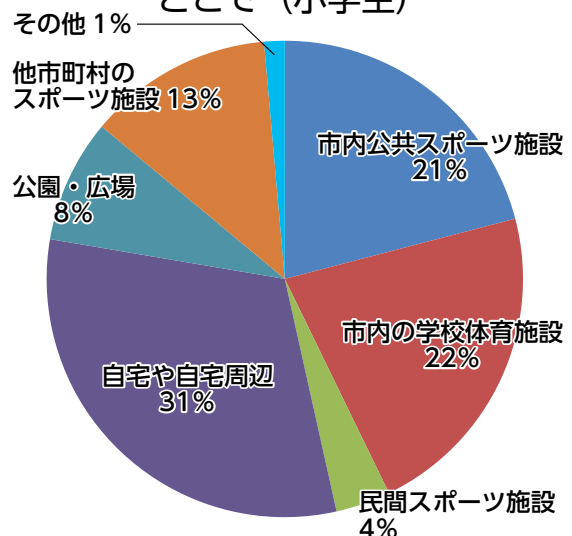
行った種目では、水泳は小学生のとき行う割合が高く、高校生になると弓道も行っています。また、サッカーは小・中・高校生をとおして人気の高いスポーツです。

どの種目をやったか

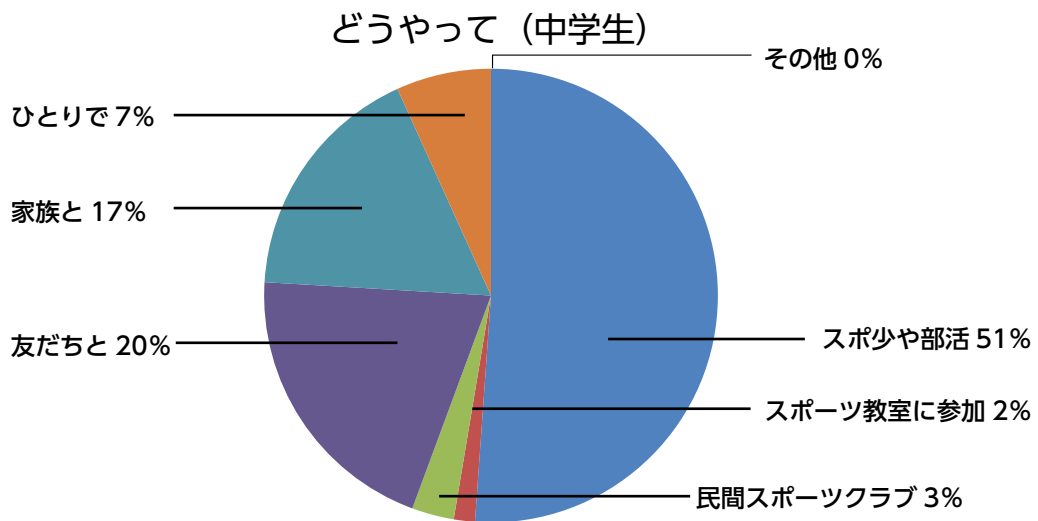


小学生が体育の授業以外でスポーツや運動を行った状況は、友だちと31%、スポ少や部活26%、家族と22%となっています。場所は、自宅や自宅周辺31%、市内の学校体育施設22%、市内の公共スポーツ施設21%となっています。友だちや家族と自宅や自宅周辺で、スポ少などで、市内の学校体育施設や公共スポーツ施設でスポーツや運動をしていることがわかります。

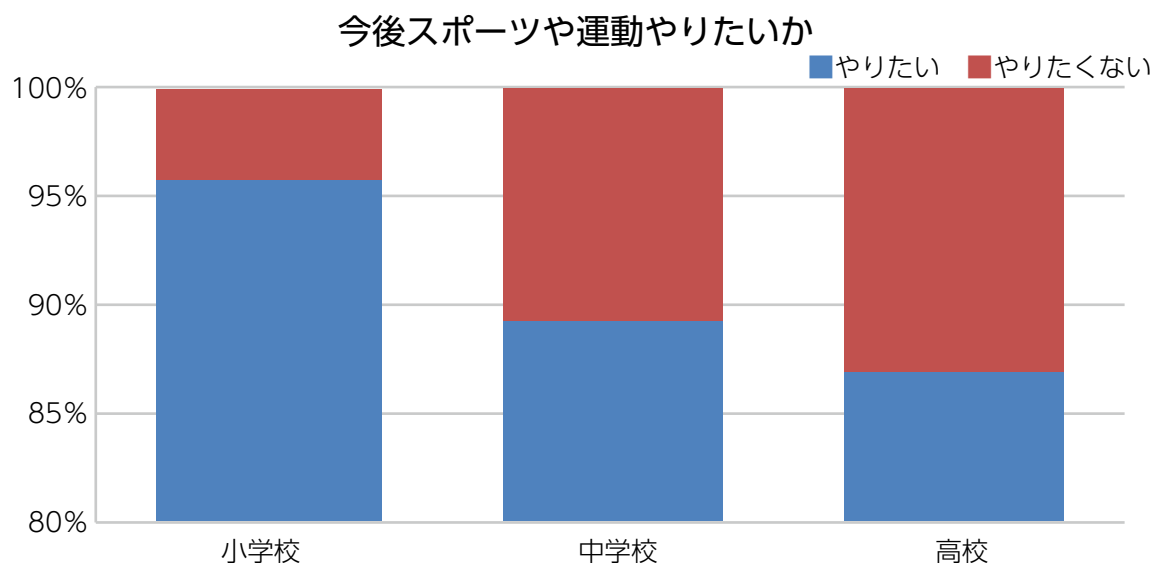
どこで (小学生)



中学生が体育の授業以外でスポーツや運動を行った状況は、スポ少や部活が51%、友だちと20%、家族と17%となっています。場所は、市内の学校体育施設46%、自宅や自宅周辺22%となっています。部活で市内学校体育施設を利用する割合が多いことがわかります。



今後スポーツや運動をやりたいかについては、小学生96%、中学生89%、高校生87%と減少してきています。子ども小的时候から体を動かす習慣を身に付け、大人になってもスポーツや運動が継続的に実施できるようすることが課題といえます。



<目標>

幼少期より適切な運動を、適切なタイミングで行っていくことが、子どもたちの心身の発達に大切なことから、日常生活での運動遊びや、スポーツ少年団活動を含む園内外、学校内外での運動やスポーツ活動を推進し、すべての子どもがスポーツを楽しむことができる環境づくりを図るとともに、中学校及び高校の運動部活動の活性化を支援します。

< 施策の展開 >

①地域でのスポーツ活動の充実

- ・外遊びや運動遊びなどの体験を通じて、スポーツに苦手意識のある子ども、気軽に楽しく体づくりができる機会を提供します。
- ・各種スポーツイベントやスポーツ教室を開催します。

②家庭、地域への啓発

- ・子どものこころとからだの問題や体力低下の問題におけるスポーツの意義について理解を促し、家庭、地域において子どもが運動を習慣化し、明るく楽しく豊かな生活を享受できることを目指した啓発活動を行います。
- ・スポーツが人間形成に重要な役割を果たすことや、効果的なトレーニングの方法、バランスの良い食事・栄養と運動とのかかわりの大切さなどについて、情報提供や講習会の開催を推進します。

③幼稚園・保育園・こども園及び学校体育での取り組み

- ・子どもたちが「できる」楽しさを味わえる授業づくりなど、より良い運動習慣の形成のための方策を、積極的に支援していきます。
- ・教員の指導力の向上やスポーツ指導者の活用等による体育・保健体育の授業の充実を図ります。

④手軽に楽しめるスポーツ実施機会の充実

- ・放課後に地域の幼児、児童が気軽に集える「居場所」(「放課後児童クラブ」など)の確保や機会づくりを支援します。
- ・幼児期や児童期に、多様な遊びやスポーツを経験できるような環境づくりを進めます。「子育て支援センター」等と連携し、安全・安心な遊び場・公園・広場等の整備や見守りを支援します。
- ・総合型スポーツクラブと連携して、子どもと保護者・家族が、異年齢の子どもや多世代の大人とともにスポーツに親しむことができる機会を充実させる取り組みを行います。

⑤種目別スポーツの基礎づくり

- ・スポーツ少年団活動などでの、各種スポーツの基礎づくりを支援していきます。また、中高校と調整しながら、ジュニアリーダー・シニアリーダーの育成も図っていきます。

⑥運動部活動の活性化

- ・スポーツ少年団や体育協会、総合型地域スポーツクラブ等と連携しながら、地域社会と連携・協働した一貫性のある指導体制の充実を図ります。
- ・指導者に対しては、医・科学的な根拠に基づくトレーニング指導法や、スポーツ心理学、スポーツ栄養学等、新しい科学的知見に基づく研修会を開催し、指導力の向上を図ります。

⑦自然資源を活用したリーダー養成

- ・行方市の水や緑の自然資源を活用し、比較的長期の宿泊学習等の「体験学習」(水辺体験学習や自然体験学習など)を通して青少年の人間形成とリーダーシップを養成します。



幼稚園



子ども園



小学校



スポーツ少年団リレーマラソン大会



スポーツ少年団剣道大会



スポーツ少年団ミニバスケットボール大会

(2) 成人のスポーツ

< 現状と課題 >

本年度実施した行方市のスポーツに関するアンケート調査では、この1年間に運動を実施した実施率は平成27年43%で、平成19年55%に対し減少しています。また、実施した方のうち週1回以上実施した実施率が平成27年58%、平成19年は49%で増加しています。実施した人は回数が増え、実施しない人と実施した人の二極化が進んでいます。

本市のスポーツ実施率は、国及び茨城県の値より低い状況にあります。まずスポーツ実施率の向上及びスポーツ未実施者の割合を縮小するための取り組みをより一層行う必要があります。

表1：1年間にスポーツや運動を実施した人の割合

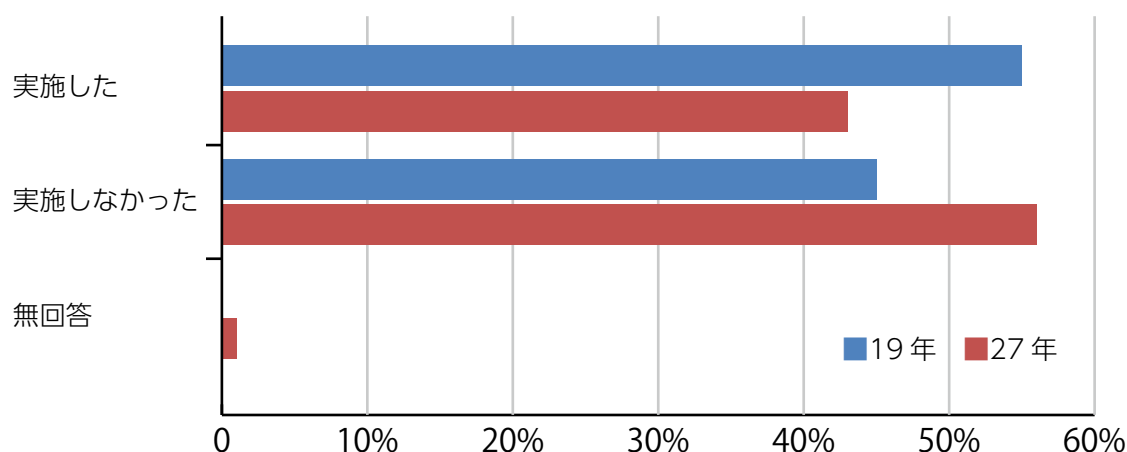
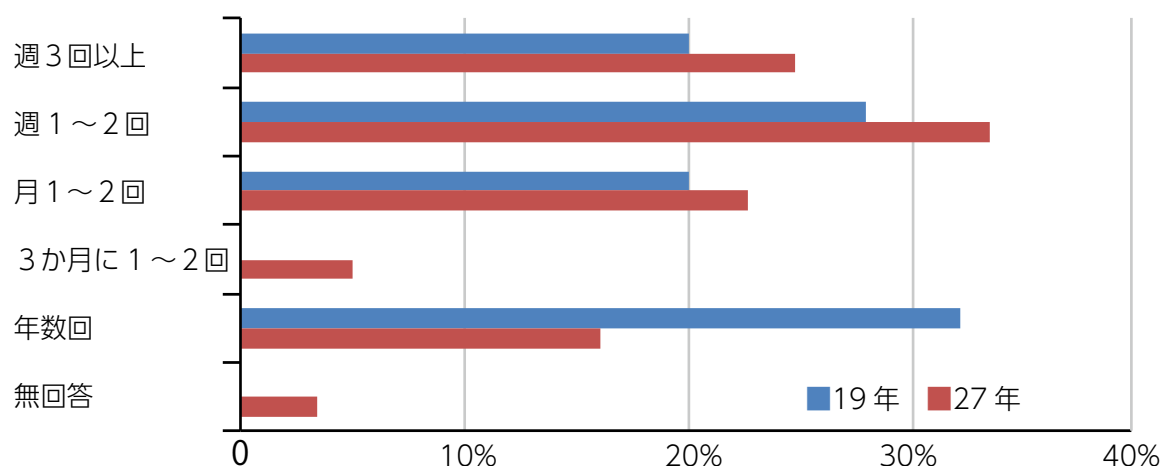
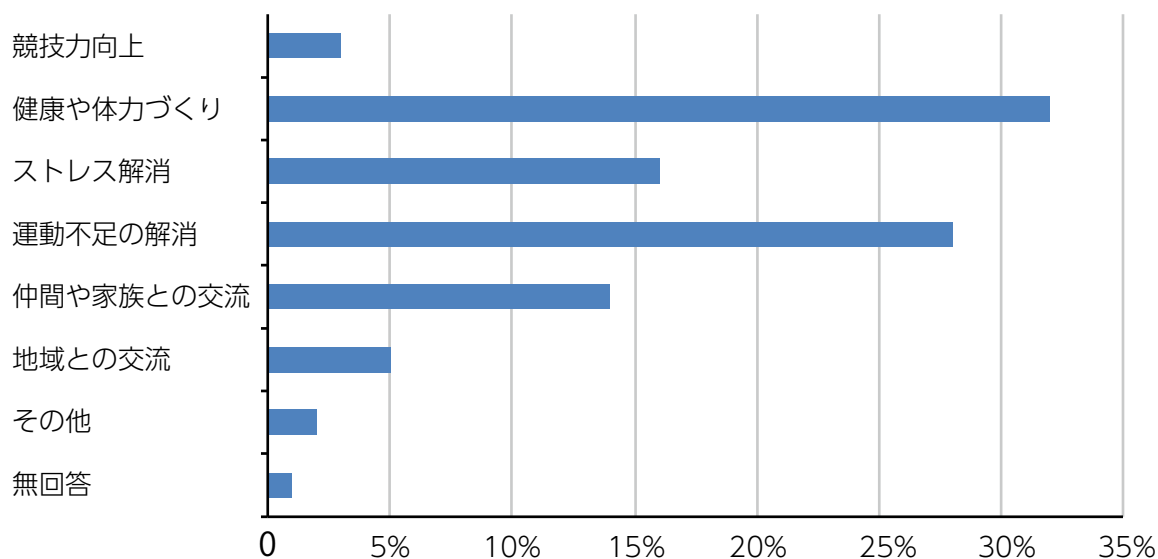


表2：実施した方のうち頻度の割合



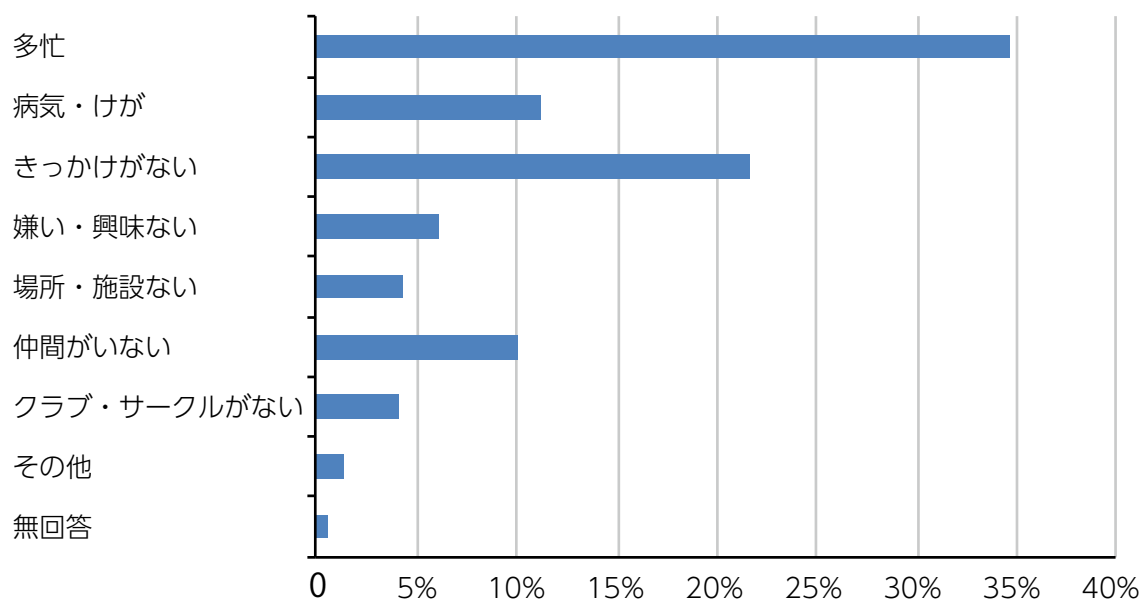
平成27年アンケートで、この1年間スポーツや運動を実施したと答えた方のその目的は、「健康や体力づくり」32%、「運動不足の解消」28.2%とあわせると6割以上の方が健康の維持増進には運動が必要だと考えていることがわかります。

表3：実施した方のうち目的の割合



実施しなかったと答えた方の理由では、「多忙」が一番多く、「きっかけがない」が次に多くなっています。スポーツや運動をはじめるきっかけがあればやれる状況（潜在的なスポーツニーズ）がうかがえます。「きっかけ」がないと答えた方が平成27年22%と多かったことに注目しなければなりません。

表4：実施しなかった方の理由の割合



<目標>

成人の運動やスポーツ活動への参加を促進します。

- ・週1回以上のスポーツの実施率を65%程度にする。
- ・1年間に運動やスポーツをやらなかった人の割合をできるだけゼロ%に近づける。

< 施策の展開 >

①スポーツプログラムの創出・PR

- ・スポーツを生涯にわたって継続できるように、仲間づくりをしながらできるスポーツやひとりでも気軽に取り組むことのできるスポーツプログラムを創出し、PRに努めます。

②スポーツイベントへの支援

- ・スポーツ推進委員と協力しながら、運動会等のスポーツイベントや各種スポーツ教室等の内容を吟味、工夫し、地域住民の誰もが参加しやすい事業を支援します。

③運動・スポーツを楽しむ機会の提供

- ・仕事等で忙しく運動やスポーツをしていない人たちに対して、忙しい中でも体を動かすことの重要性や、日常生活の中で気軽にできる運動プログラム等の情報を提供します。
- ・病気・怪我のため運動やスポーツをしていない人たちに対して、スポーツや健康に関する事業・イベント・各種教室や運動の仕方・健康に関する情報・リハビリトレーニングに関する情報などを提供していきます。
- ・スポーツや運動をするきっかけのない人たちに対して、各種団体（体育協会・スポーツ少年団等）、総合型地域スポーツクラブと連携し、スポーツや運動を楽しむ機会を提供します。

④職場における手軽な運動の推奨

- ・市内の事業者等に働きかけ、職場における手軽な運動の実施を推奨します。

⑤関係事業課等との連携

- ・スポーツや健康に関する事業・イベントを健康増進課等関係各課と連携を図りながら進めていきます。



バランスボール教室



9人制バレーボール大会

(3) 高齢者のスポーツ

< 現状と課題 >

高齢者の運動やスポーツの実施状況を見ると、運動やスポーツに親しむ人とそうでない人の二極化の傾向が見られます。スポーツはしていなくても、農作業等に従事し、日々体を動かしている高齢者も多いと思われませんが、グラウンドゴルフ等のスポーツに親しむ高齢者が多くいるのも現状です。今後も運動やスポーツを問わず、体を動かさない高齢者を限りなくゼロに近づけることが重要な課題です。

< 目標 >

高齢者が健康の保持増進のための運動習慣を身に付けられるよう、「健康づくり計画」等と連携しつつ、身体活動の機会の増加を推進します。生涯スポーツが高齢者の「生活の楽しみ」「居場所（仲間との交流）」「生きがい」等になることを目標にします。

< 施策の展開 >

① ニュースポーツの普及

- ・高齢者が気軽に参加できるニュースポーツ等の積極的な普及に努めます。

② 身体活動の機会の増加・啓発支援

- ・福祉的施設や、学校跡地・空き教室等を有効活用するなど、高齢者を含めた様々な世代の「交流空間」を創設するとともに、施設入居者を含めた高齢者の身体活動の機会の増加について、啓発・広報・支援活動を行います。

③ スポーツ文化交流支援

- ・ねんりんピック（全国健康福祉祭）など、スポーツ・文化を通じ交流を深められる事業への参加を支援していきます。

④ 主体的なスポーツ活動への勧誘

- ・老人クラブをはじめとする地域の高齢者自主グループに働きかけ、主体的に生涯スポーツへの興味を持つことができるように、現在体を動かしていない高齢者へ啓発や広報活動に併せて勧誘を行います。



グラウンドゴルフ大会



なめがたふれあいスポーツクラブの活動

(4) 障がい者の運動やスポーツ

< 現状と課題 >

平成 23 年 8 月に施行されたスポーツ基本法において、スポーツの価値や意義とともに、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人の権利」であると定められています。

障がい者のスポーツは、リハビリテーションの延長という考え方から、日常生活で楽しむレクリエーションや健康の維持・増進などを目的とした生涯スポーツ、競技するスポーツへと変わってきました。

行方市においては、障がい者のスポーツは、行方市総合計画に基づき、福祉部門を中心に行っています。しかし、障がい者スポーツの環境（場所・指導者）は未だ整っていない状況にあります。障がい者の日常の過ごし方として、レクリエーションやスポーツを楽しむ機会が少ない現状です。

最近、研修や実技講習会が催され、平成 27 年度に「第一回障がい者スポーツ大会」を開催するなどの動きが出てきています。こうした中、総合型スポーツクラブ（なめがたふれあいスポーツクラブ）では、障害者就労支援事業所の参加があり、一般の方と一緒に汗を流し、楽しむグループも出てきています。

< 目標 >

障がいの種類や程度に応じて、誰もが参加しやすく楽しむことができる運動やスポーツ活動を推進します。

< 施策の展開 >

①交流できるスポーツ環境の整備

- ・障がいのある人もない人も共にスポーツができる機会を提供し、障がいに関係なく一緒にスポーツを楽しみ交流できる環境をめざします。

②スポーツ実践活動への調査・研究

- ・誰もが健康で豊かな生活が送れるよう、福祉部門と連携して日常的な運動・スポーツ種目や指導方法について調査・研究します。

③コーディネーターの養成

- ・障がい者スポーツ推進のためのコーディネーターとして、「障がい者スポーツ指導員」「障がい者スポーツボランティア」を養成していきます。
- ・介助等のボランティアの育成・確保に努めます。

④情報発信の推進

- ・スポーツの効用に関する情報発信や、障がいのある人が「いつ、どこで、どのようにして」できるかという具体的な情報発信・普及啓発を推進します。

2. スポーツ環境の整備と充実

(1) スポーツ団体等の活動支援

<現状と課題>

市民の健康や体力の維持増進のためには、指導者の充実や指導者の適切な指導が欠かせません。

行方市のスポーツに関するアンケート調査、「今後運動やスポーツをするようになるため、どうすればよいか」では、休日等の時間の使い方を工夫する21%、一緒にやる仲間を見つける21%、一人でもいろいろなスポーツができるようしくみ（団体やサークル）を作る14%、市の体育館や運動場を気軽に使えるようにする16%、いろいろな人たちが自由に参加できるしくみ（団体やサークル）を作る17%となっています。

総合型スポーツクラブは、1995年国の文部科学省が実施するスポーツ振興策の一つで、スポーツ振興基本計画では、「全国各市町村に少なくとも1つの総合型地域スポーツクラブを育成する」としていることから、行方市では平成24年4月に新しい総合型クラブとして「なめがたふれあいスポーツクラブ」が創設されました。地道な努力によって会員や参加者の笑顔は次第に増えています。しかし、まだまだ認知度が低く参加者も少ない状況もあります。

現在の活動状況として、定期開催は、毎週土曜日に玉造運動場体育館で、午前中誰でも参加できる「ふれあい教室」の開催や、幼・小学生を対象に「ヒップホップダンス教室」を毎週木曜日レイクエコーで夜2時間程度開催しています。その他ウォーキング教室やバランスボール教室をイベント開催しています。メインとなる「ふれあい教室」は体操、卓球、ニュースポーツなど多種目を楽しめる場となっています。参加者は小学生、障がい者施設利用者、高齢者が中心です。若い働き盛りの方は、土曜日の昼間仕事などのため参加者が少ないことが課題です。

<目標>

地域におけるスポーツ機会の充実を図るため、スポーツ団体や、総合型スポーツクラブ（なめがたふれあいスポーツクラブ）の活動を促進していきます。

<施策の展開>

①スポーツ団体等の活性化支援

スポーツの普及・推進には、市内のスポーツ団体（行方市体育協会、行方市スポーツ少年団等）が、重要な役割を担っています。そのため、これまでの事業をさらに充実させるとともに、自主的・主体的・継続的に活動しているスポーツ団体に対し支援を行い、個々のスポーツ団体の活性化を図りつ

つ、地域スポーツの活性化や運動・スポーツ人口の拡大等につながります。

②スポーツに関する組織等の連携支援

行方市体育協会、行方市スポーツ推進委員会、行方市スポーツ少年団、市内小学校、中学校、高等学校、スポーツ団体等が連携することにより、総合的・体系的な活動体制が築けるよう、スポーツ推進のための組織体制の充実に努めます。

参加者数拡大の取り組みやトップ選手等からの研修機会の確保など、また食事や栄養、医療部門との連携を図りながら、各種支援体制を築いていきます。

③「なめがたふれあいスポーツクラブ」の活性化支援

クラブ育成には、①自主的な運営、②自主財源を主とする運営、③クラブとしての理念の共有を基本認識のもと支援します。

総合型地域スポーツクラブの主役は「地域」住民の皆さんです。誰もが行いたいスポーツを自由に選択できるとともに、各種のイベントなどいろいろな形でスポーツを楽しむことのできる身近な場とします。質の高いマネジメントを有する非営利組織とするため法人化を目指し、支援します。

多様な関係者が連携・協働する総合型クラブ「なめがたふれあいスポーツクラブ」について情報発信を行い、市民に対する総合型クラブの活動の認知度を高めます。

また、運営体制や事業の取り組みを充実させ、地域住民が運営活動に参加できるようしくみを構築できるよう、支援していきます。

④スポーツ推進委員活動の強化

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に基づき市教育委員会から委嘱される非常勤の特別公務員です。従来の体育指導員のような実技指導だけではなく、各地区の住民と行政等をつなぐコーディネーター（啓発・調整・支援等）としての役割が期待されています。今後のスポーツ推進委員の活動は、潜在的なスポーツ需要者の参加を含めて、気軽に身近な住民の生涯スポーツ（地域スポーツ）の発展の要となります。住民の生涯スポーツを、身近な地域独自の魅力ある施策・事業で支える重要な母体となることが望まれます。そのため、必要な技能・能力の向上に資する研修等への参加及び活動の場の拡充を図り、今後もスポーツに関する指導、助言や地域住民と行政とのコーディネーター、スポーツ施策の重要な推進役として活躍できるよう活動の強化に努めます。

⑤行政関係部門の連携の強化・充実

スポーツ推進と健康づくりは密接な関係にあります。今後のスポーツ推進においては市民のスポーツ・運動の活性化と健康づくりに、健康増進課等関係部門間の連携体制の一層の充実に努めます。

(2) 学校体育施設開放事業

< 現状と課題 >

市民が定期的・継続的に運動やスポーツ活動の推進を目的として、学校体育施設開放事業を行っています。本市に在住または在勤するもので、教育委員会に登録した10人以上でスポーツ保険に加入した団体に対し開放しています。市内小・中学校体育施設の開放状況は、平成27年度は50団体が週1回から4回利用しています。事業を継続していくためには、現在は無料で開放している学校体育施設を、今後は適正な受益者負担の考え方から、使用料の負担についても検討していくことが課題となります。

< 目標 >

地域におけるスポーツ機会の充実を図るため、学校体育施設開放事業の推進を図ります。

< 施策の展開 >

平成28年4月からの学校体育施設開放事業は、統合後の市内4小学校、3中学校が対象となります。これからも、新規の利用希望団体を受入れるため、啓発や広報活動を行います。

(3) 公共体育施設等の充実

< 現状と課題 >

現在、運動場（麻生・玉造・北浦）が3地区にあります。（資料）

麻生運動場については、現在市民の利用できる施設が体育館と弓道場のみとなっていますが、旧麻生中学校跡地に、平成29年度供用開始に向けた、屋外体育施設が整備されます。整備内容は、夜間照明付きの多目的広場やテニスコート、フットサルコートとなっています。また、野球場についても整正され、利用しやすくなります。

玉造運動場・玉造B&G海洋センターについては、体育館、プール、テニスコートがあります。現在ある野球場等の施設の多目的な利用方法が課題です。

北浦運動場については、第2グラウンドは、夜間照明があり多目的に利用できることから、利用頻度が高い状況にあります。第1グラウンドについては、平成31年に開催される茨城国体のゲートボール競技会場となっており、天然芝の管理をしています。国体以降のグラウンド管理が課題となります。

< 目標 >

市民が日常的にスポーツに親しむことのできる市体育施設の整備確保に努めます。

＜施策の展開＞

①公共施設の空きスペースの活用

廃校又は地区館等で耐震性のある建物等の空きスペースは、地域住民の交流スペース（居場所）として重要です。国の基本計画に明記されているように、特に総合型を目指す単一種目のスポーツ・レクリエーション団体にとっては極めて大切な施設となり得ます。それぞれの団体等と協議しながら、より効果的な利用方策を見い出していきます。

②体育施設の広域利用

現在、行方市ほか石岡市、茨城町、小美玉市と広域利用の調整が進んでいます。協定市町間で他市町の体育施設を施設の所在する住民の方と同じ条件で利用できるよう取り組んでいきます。また、市民の利便性を高めるために更に近隣市との広域利用を検討していきます。

③これからの施設整備

行方市のスポーツ施設適正配置については、平成 19 年に同検討委員会から、「将来的には、総合型スポーツ施設を建設することが望ましい。」との答申がなされています。

大規模なスポーツ施設建設には、様々な意見があり財源など検討すべき課題があります。一方で、高齢化が進み人口減が予想される当市にとっては、スポーツを通して若い人が交流のきっかけとなれるような、夢のある計画も必要だと考えられます。

今後老朽化していく施設もある中で、段階的に「一帯的な」施設整備ができることを目標に、スポーツ施設の整備を検討していきます。

3. スポーツ実践活動の推進

(1) スポーツ団体の指導者・スタッフの育成支援

＜現状と課題＞

現在行方市では、8 種目 15 人が、茨城県スポーツリーダーバンクへ登録しています。

各競技種目ごとの指導者養成事業については、各個人での対応により、公認スポーツ指導者等の資格を取得しています。

新たな指導者養成とともに、現在資格を取得している人の継続的な活動を、維持進展できるようにすることが、課題となっています。

＜目標＞

地域スポーツの振興に向けて、指導者の育成と活用を促進します。

＜施策の展開＞

①指導者の育成

市民の多様化するスポーツニーズに応えるためにも、関係団体・機関と連携を図りながら、公認指導員等の資格取得や継続更新を支援することや、研修会や講習会への参加を推進するなど、指導者・スタッフの育成と継続活動の支援に努めます。

②指導者の活用

地域の指導者の実態把握とともに、公認指導員等には、関係団体・機関と連携を図りながら、指導環境を整備していきます。また、県スポーツリーダーバンク等を積極的に活用していきます。

(2) 競技スポーツの支援

＜現状と課題＞

行方市スポーツ大会出場補助金事業として、関東大会、全国大会出場個人・チームを支援してきました。

競技力向上のために、ジュニア期の選手の育成が大事なことから、相互連携のもとスポーツ少年団や学校部活動などの指導者として、外部コーチ等を含め、求められる指導者が確保・養成される必要があります。

＜目標＞

選手たちが出場しやすい環境を整えるため、従来から実施している行方市スポーツ補助金事業を今後も継続していきます。

ジュニア期の児童生徒たちが、多くの指導ノウハウを持った指導者から、体系的にコーチングされる機会を増やしていきます。

＜施策の展開＞

①スポーツ優秀選手の支援

スポーツ大会参加補助として関東大会、全国大会等へ出場する選手・団体へ大会参加費、旅費の一部を支援してきましたが、今後も引き続き支援していきます。また、競技力向上を図るため、指導者研修や栄養指導、コンディショニングなどの支援体制を構築していきます。

②スポーツ大会の開催

選手の競技力向上の動機づけとなるような、大会等を開催していきます。

③スポーツ教室等の開催

高いスポーツ技術に触れられる機会を提供し一流選手などによる、教室・講演会等の積極的な開催に努めます。

④茨城国体に向けての取り組み支援

茨城国体にむけて連携の充実を図り、指導者・選手等のレベルアップを目指すため、各競技種目・段階層での取り組みを支援します。

平成 31 年茨城国体が開催されるにあたり、行方市では公開競技のゲートボールが北浦第 1 グラウンドを会場として行われます。さらに、デモンストレーション競技として、麻生地区の天王崎でビーチハンドボールが開催されます。これら各都道府県からの選手が十分力を発揮できるよう、会場の整備や維持管理に関係機関とともに協力しながら、進めていきます。

また、受入れ態勢を整え多くの市民が積極的に関わりを持てるよう、PR活動を推進していきます。

指導者や活躍できる選手の育成については、現段階のジュニア層（中学生）での、ポテンシャルの高い選手を発掘し、保護者・学校等と連携をもちながら、適切な指導・育成環境を整備していきます。

また、トップアスリートとして現在活躍している行方市出身の選手に対し、地元代表としての活躍を支援します。

4. スポーツを通じた人と人との「つながり」と「交流」の推進

(1) スポーツ交流の充実・支援

< 現状と課題 >

地域での人のつながりの観点から、ウォーキングやハイキング大会、またグラウンドゴルフ大会など、共に行うスポーツ活動が、つながり・交流のきっかけづくりとなる可能性があります。地域住民と一緒に運動する機会として、現在、市民運動会が実施されていますが、参加者数は、平成 23 年度 2,983 人、平成 26 年度 1,569 人と減少傾向にあります。

スポーツ基本計画では、「スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進」が掲げられています。行方市は、鹿島アントラーズのホームタウンとして参画しています。所属選手等によるサッカーを通じた保育園・こども園・幼稚園・小学校での交流会や、ジュニア育成も含めた地域に身近なスポーツ活動に注目が集まっています。また、食育やスポーツ医療の面への波及効果も及ぼしています。

企業との連携の一例として、大塚製薬とは、スポーツ振興・健康づくりでの連携協定を結んでいます。

スポーツ活動と地域経済の活性化の面では、市外から参加者を呼び込んで観光と結んでいるフットパス事業や、市外にオープン化されたスポーツ大会などがあります。地域の特産物を賞品や記念品としてPRしています。また、市内の施設を活用したスポーツ合宿も行われています。

現状の交流を基軸として、さらに、交流を推進する事業の展開が必要とされています。

<目標>

スポーツの持つ魅力の多面性を多くの人たちと共有していきます。さらに、スポーツを通じ、「行方」を内外に向け発信していきます。

運動会をより市民が集い、市民がスポーツ・運動を通し世代を超えた交流ができるような、笑顔あふれるスポーツ・レクリエーションイベントにします。

<施策の展開>

①スポーツイベントの開催

スポーツ推進委員と協力しながら、市民のニーズの反映による地域住民の誰もが参加しやすい事業を支援します。

②スポーツボランティアの養成と活用

スポーツを支えることは、するスポーツや見るスポーツとともに、スポーツの楽しみ方の一つとなっています。市民に対し、大会の運営を支えるスポーツボランティアを育成します。

③スポーツを通じた交流事業の展開

スポーツイベントやレクリエーションスポーツなどと、地域活動や経済活動などを組み合わせながら、市内外の人との交流を推進する事業を展開していきます。また、そのような事業を支援していきます。

④スポーツを通じた「行方」のPR

スポーツを通じた、「行方」のPRを実践していきます。そのために、市の関係部課との連携はもとより、スポーツ団体や関係自治体、大学、企業等とも連携を深めていきます。



行方市総合スポーツ大会



鹿島アントラーズ「行方の日」

資料



麻生運動場



- ・体育館
- ・柔道場
- ・弓道場
- ※野球場・多目的広場・テニスコート・フットサルコートがH29年度供用開始予定

北浦運動場



- ・体育館
- ・トレーニングルーム
- ・テニスコート
- ・第1グラウンド
- ・第2グラウンド
- ・クロッカーコート
- ・柔剣道場 (北浦中学校前)
- ・ゆうゆう広場

玉造運動場
玉造B & G海洋センター



- ・体育館
- ・柔剣道場
- ・テニスコート
- ・プール (7月～9月)
- ・弓道場
- ・浜球場
- ・泉球場
- ・艇庫 (2箇所)

行方市のスポーツに関するアンケート調査結果

1. 趣旨

行方市スポーツ推進計画を策定するにあたり、市民のスポーツや運動について意見や要望を把握し、計画策定や市政運営の資料とする。

2. 調査の方法

(1) 調査時期

- ・小・中・高校生 平成 27 年 5 月 11 日～6 月 15 日
- ・一般 平成 27 年 5 月 11 日～6 月 5 日

(2) 調査対象

- ・小・中・高校生 344 人
小学 6 年生 154 人：麻生小 25 人(1 クラス分)・麻生東小 37 人(全員)・
武田小 34 人(全員)・玉造小 58 人(2 クラス分)
中学 3 年生 90 人：麻生中、北浦中、玉造中(各校 30 人)
高校 2 年生 100 人：麻生高校、玉造工業高校(各校 50 人)
- ・一般 方市在住の 20 歳から 80 歳の男女 3,000 人
(住民基本台帳から無作為抽出)

(3) 調査方法

- ・小・中・高校生 学校へ依頼
- ・郵送による配布、回収(行方市総合計画アンケートに同封)

(4) 回答結果

- ・小・中、高校生 回収計 311 人 回収率 90.4%
内訳 小学生 回収 151 人 回収率 98.1%
中学生 回収 87 人 回収率 96.7%
高校生 回収 73 人 回収率 73.0%
- ・一般 回収 918 人 回収率 30.6%

一般市民のスポーツに関するアンケート結果

属性1 あなた自身についてお伺いします (◆性別)

	回答数	構成比
(1) 男性	389	42.4%
(2) 女性	499	54.4%
無回答	30	3.3%
計	918	100.0%

属性2 あなた自身についてお伺いします (◆年齢)

	回答数	構成比
(1) 20代	72	7.8%
(2) 30代	115	12.5%
(3) 40代	202	22.0%
(4) 50代	219	23.9%
(5) 60代	193	21.0%
(6) 70歳以上	102	11.1%
無回答	15	1.6%
計	918	100.0%

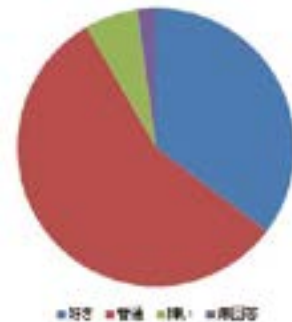
属性3 あなた自身についてお伺いします (◆お住まい)

	回答数	構成比
(1) 麻生地区	341	37.1%
(2) 北浦地区	215	23.4%
(3) 玉造地区	297	32.4%
無回答	65	7.1%
計	918	100.0%

問1 あなたは、スポーツや運動は好きですか。

	回答数	構成比
(1) 好き	324	35.3%
(2) 普通	517	56.3%
(3) 嫌い	57	6.2%
無回答	20	2.2%
計	918	100.0%

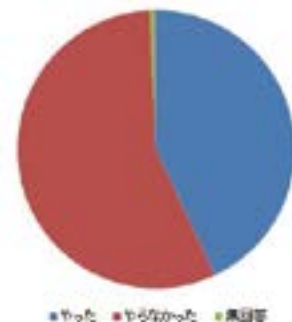
問1 あなたは、スポーツや運動は好きですか。



問2 あなたは、この1年間スポーツや運動をやりましたか。

	回答数	構成比
(1) やった	395	43.0%
(2) やらなかった	516	56.2%
無回答	7	0.8%
計	918	100.0%

問2 あなたは、この1年間スポーツや運動をやりましたか。



問3-2 (問2で①やったと答えた方) <頻度>

	回答数	構成比
(1) 週に3回以上	97	24.6%
(2) 週に1~2回	132	33.4%
(3) 月に1~2回	89	22.5%
(4) 3か月に1~2回	20	5.1%
(5) 年に数回	43	10.9%
無回答	14	3.5%
計	395	100.0%

問3-2 (問2で①やったと答えた方) <頻度>



問3-3 (問2で①やったと答えた方) <目的> (3つまで)

	回答数	構成比
(1) 競技力向上	28	3.4%
(2) 健康や体力づくり	261	32.0%
(3) ストレス解消	127	15.6%
(4) 運動不足の解消	230	28.2%
(5) 仲間や家族との交流	110	13.5%
(6) 地域との交流	40	4.9%
(7) その他	15	1.8%
無回答	5	0.6%
計	816	100.0%

問3-3 (問2で①やったと答えた方) <目的> (3つまで)



問3-4 (問2で①やったと答えた方) <状況> (3つまで)

	回答数	構成比
(1) クラブや団体に所属	98	17.0%
(2) 職場や学校の仲間と	50	8.7%
(3) 友人と	138	23.9%
(4) 家族と	75	13.0%
(5) スポーツ教室に参加	22	3.8%
(6) ひとりで	176	30.4%
(7) その他	11	1.9%
無回答	8	1.4%
計	578	100.0%

問3-4 (問2で①やったと答えた方) <状況> (3つまで)



問3-5 (問2で①やったと答えた方) <場所> (3つまで)

	回答数	構成比
(1) 市内の公共スポーツ施設	71	12.7%
(2) 市内学校体育施設	35	6.2%
(3) 民間スポーツ施設	69	12.3%
(4) 自宅や自宅周辺	179	31.9%
(5) 公園・広場	57	10.2%
(6) 他市町村のスポーツ施設	89	15.9%
(7) その他	37	6.6%
無回答	24	4.3%
計	561	100.0%

問3-5 (問2で①やったと答えた方) <場所> (3つまで)



問4 (問2で②やらなかったと答えた方) やらなかった理由 (3つまで)

	回答数	構成比
(1) 仕事や家事などで忙しかったため	306	34.7%
(2) 病気やケガなどの身体的理由	100	11.3%
(3) きっかけがない	191	21.7%
(4) 嫌い又は興味がない	54	6.1%
(5) やる場所や施設がない	39	4.4%
(6) やる仲間がいない	89	10.1%
(7) 行うクラブやサークル等がない	36	4.1%
(8) お金がかかる	49	5.6%
(9) その他	13	1.5%
無回答	5	0.6%
計	882	100.0%

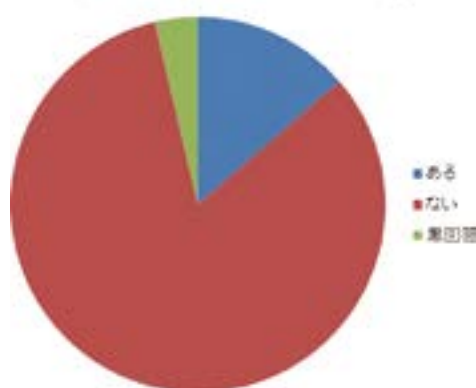
問5 あなたは、スポーツに関するボランティア活動に参加したことはありますか。

	回答数	構成比
(1) ある	125	13.6%
(2) ない	759	82.7%
無回答	34	3.7%
計	918	100.0%

問6 (問5で①あると答えた方) どのような活動をやりましたか。(3つまで)

	回答数	構成比
(1) スポーツの指導・コーチ	38	20.5%
(2) スポーツ行事・大会・イベント等の手伝い	75	40.5%
(3) スポーツの審判・競技役員	30	16.2%
(4) スポーツクラブ・団体の運営や活動の手伝い	36	19.5%
(5) その他	3	1.6%
無回答	3	1.6%
計	185	100.0%

問5 あなたは、スポーツに関するボランティア活動に参加したことはありますか。



問6 (問5で①あると答えた方) どのような活動をやりましたか。(3つまで)



問7 あなたは、今後スポーツや運動をやりたいですか。

	回答数	構成比
(1) やりたい	591	64.4%
(2) やりたくない	221	24.1%
無回答	106	11.5%
計	918	100.0%

問8 あなたがスポーツや運動を（現在よりも）するようになるためには、どうすればいいと思いますか。（3つまで）

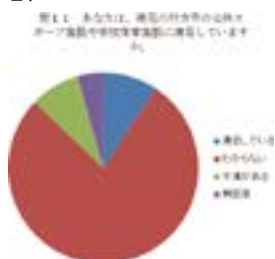
	回答数	構成比
(1) 休日等の時間の使い方を工夫する	346	20.8%
(2) 一緒にやる仲間を見つける	350	21.0%
(3) 一人でもいろいろなスポーツができるようなしくみ（団体やサークル）を作る	232	13.9%
(4) 市の体育館や運動場を気軽に使えるようにする	273	16.4%
(5) いろいろな人たちが自由に参加できるしくみ（団体やサークル）を作る	288	17.3%
(6) その他	62	3.7%
無回答	115	6.9%
計	1666	100.0%

問9 あなたは、「総合型地域スポーツクラブ」について知っていますか。

	回答数	構成比
(1) 知っている	79	8.6%
(2) 知らない	678	73.9%
(3) 名称だけは聞いたことがある	137	14.9%
無回答	24	2.6%
計	918	100.0%

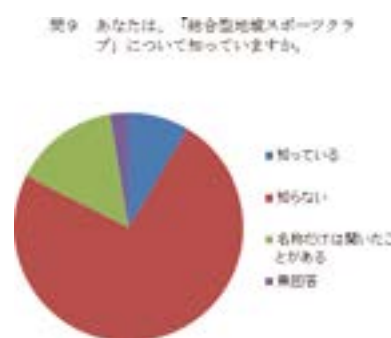
問10 あなたは、平成24年に創設した「総合型地域スポーツクラブ なめがたふれあいスポーツクラブ」について知っていますか。

	回答数	構成比
(1) すでに入会しているまたは参加したことがある	17	1.9%
(2) 名称は知っているが活動内容はよく分からない	203	22.1%
(3) 名称も活動内容も分からない	669	72.9%
無回答	29	3.2%
計	918	100.0%



問11 あなたは、現在の行方市の公共スポーツ施設や学校体育施設に満足していますか。

	回答数	構成比
(1) 満足している	85	9.3%
(2) わからない	715	77.9%
(3) 不満がある	78	8.5%
無回答	40	4.4%
計	918	100.0%



問12 あなたが、市の体育施設を利用してクラブや教室に加入するとしたら、どのくらいの金銭的負担なら可能ですか。

	回答数	構成比
(1) 月1,000円未満	341	37.1%
(2) 月1,000～2,000円未満	302	32.9%
(3) 月2,000～3,000円未満	139	15.1%
(4) 月3,000～4,000円未満	24	2.6%
(5) 月4,000円以上	16	1.7%
無回答	96	10.5%
計	918	100.0%

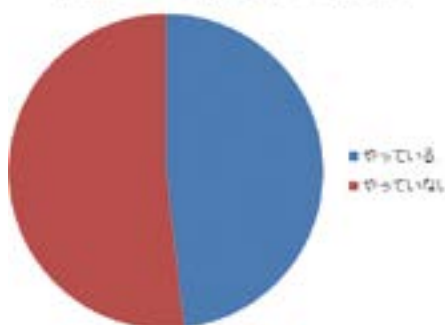
問13 (幼稚園・小学生のお子様をお持ちの方のみ) あなたのお子様は、幼稚園や学校の体育の授業以外にスポーツや運動をやっていますか。

	回答数	構成比
(1) やっている	77	8.4%
(2) やっていない	83	9.0%
無回答	758	82.6%
計	918	100.0%

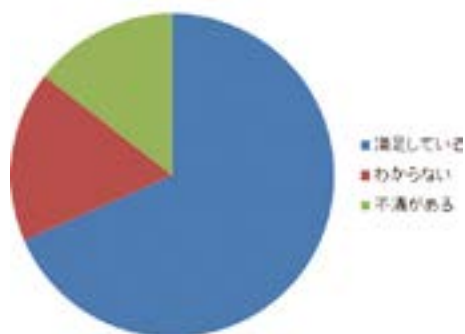
問14 (問13で①やっていると答えた方) その活動に満足していますか。

	回答数	構成比
(1) 満足している	52	67.5%
(2) わからない	13	16.9%
(3) 不満がある	11	14.3%
無回答	1	1.3%
計	77	100.0%

問13 (幼稚園・小学生のお子様をお持ちの方のみ) あなたのお子様は、幼稚園や学校の体育の授業以外にスポーツや運動をやっていますか。



問14 (問13で①やっていると答えた方) その活動に満足していますか。



問15 (問13で②やっていないと答えた方) その理由。(3つまで)

	回答数	構成比
(1) 塾や習い事で忙しい	7	6.0%
(2) 病気や怪我などの身体的理由	5	4.3%
(3) スポーツや運動が嫌い	11	9.5%
(4) 送り迎えができない	31	26.7%
(5) やりたい種目やクラブがない	31	26.7%
(6) 役員等をやりたくない	12	10.3%
(7) その他	12	10.3%
無回答	7	6.0%
計	116	100.0%

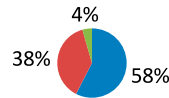
市内小・中・高校生のスポーツに関するアンケート結果

小学生	151
中学生	87
高校生	73

問1 あなたは、スポーツや運動は好きですか。

1 好き	194
2 普通	128
3 嫌い	15

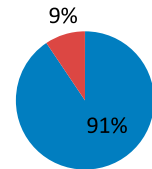
■ 1好き ■ 2.普通 ■ 3嫌い



問2 あなたはこの1年間体育の授業以外でスポーツや運動をやりましたか。

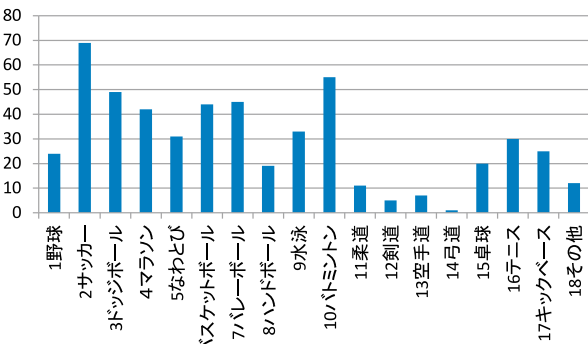
1 やった	250
2 やらなかった	26

■ 1やった ■ 2やらなかった

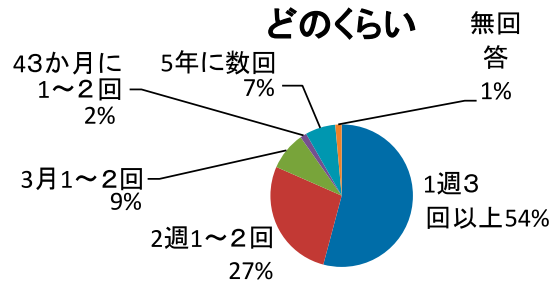


問3 問2で(1. やった)とお答えになった方、どの種目をどのくらい・何のために・どうやってやりましたか。

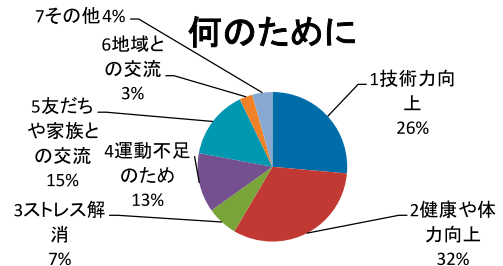
種目	回数
1 野球	24
2 サッカー	69
3 ドッジボール	49
4 マラソン	42
5 なわとび	31
6 バスケットボール	44
7 バレーボール	45
8 ハンドボール	19
9 水泳	33
10 バトミントン	55
11 柔道	11
12 剣道	5
13 空手道	7
14 弓道	1
15 卓球	20
16 テニス	30
17 キックベース	25
18 その他	12



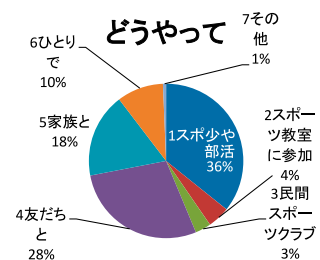
どのくらい	回数
1 週3回以上	150
2 週1~2回	76
3 月1~2回	24
4 3か月に1~2回	4
5 年に数回	19
無回答	4



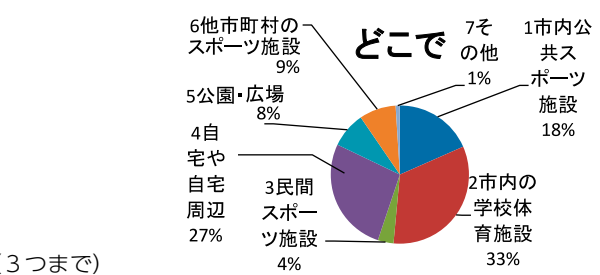
何のために	回数
1 技術力向上	140
2 健康や体力向上	170
3 ストレス解消	35
4 運動不足のため	68
5 友だちや家族との交流	79
6 地域との交流	15
7 その他	23



どうやって	回数
1 スポ少や部活	162
2 スポーツ教室に参加	21
3 民間スポーツクラブ	15
4 友だちと	128
5 家族と	80
6 ひとりで	44
7 その他	3

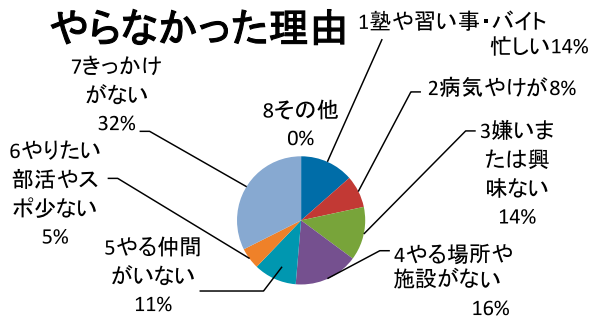


どこで (3つまで)		
1 市内公共スポーツ施設		75
2 市内の学校体育施設		135
3 民間スポーツ施設		15
4 自宅や自宅周辺		110
5 公園・広場		34
6 他市町村のスポーツ施設		35
7 その他		4



問4 問2で(2 やらなかった)とお答えになった理由(3つまで)

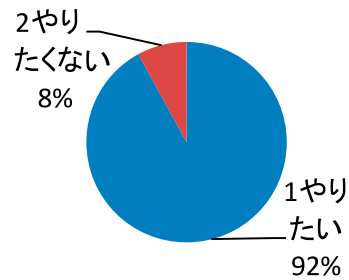
1 塾や習い事・バイト忙しい	5
2 病気やけが	3
3 嫌いまたは興味ない	5
4 やる場所や施設がない	6
5 やる仲間がいない	4
6 やりたい部活やスポ少ない	2
7 きっかけがない	12
8 その他	0



これからのスポーツや運動への関心について

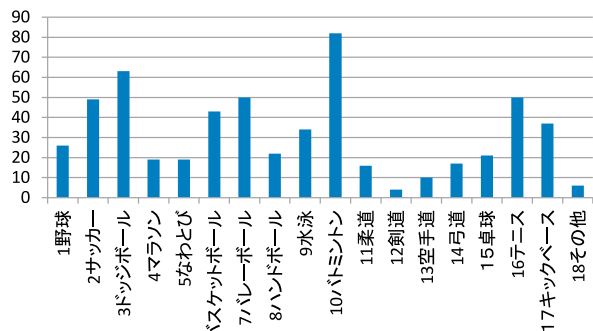
問5 あなたは今後スポーツや運動をやりたいですか。

1 やりたい	265
2 やりたくない	23



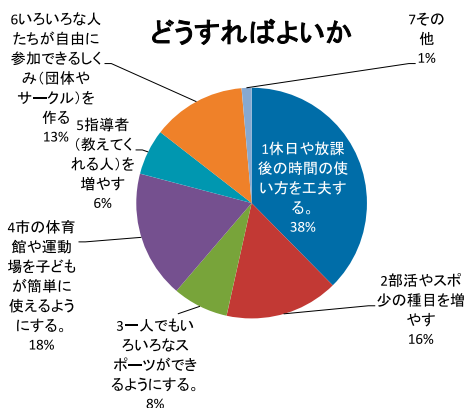
問6 問5で(1 やりたい)と答えた方に伺います。どのようなスポーツや運動やりたいですか。(3つまで)

1 野球	26
2 サッカー	49
3 ドッジボール	63
4 マラソン	19
5 なわとび	19
6 バスケットボール	43
7 バレーボール	50
8 ハンドボール	22
9 水泳	34
10 バトミントン	82
11 柔道	16
12 剣道	4
13 空手道	10
14 弓道	17
15 卓球	21
16 テニス	50
17 キックベース	37
18 その他	6



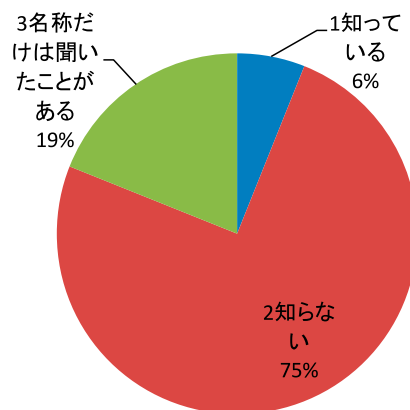
問7 あなたがスポーツや運動を（現在よりも）するようになるためには、どうすればいいと思いますか。（3つまで）

1 休日や放課後の時間の使い方を工夫する。	135
2 部活やスポ少の種目を増やす	57
3 一人でもいろいろなスポーツができるようにする。	28
4 市の体育館や運動場を子どもが簡単に使えるようにする。	64
5 指導者（教えてくれる人）を増やす	23
6 いろいろな人たちが自由に参加できるしくみ（団体やサークル）を作る	47
7 その他	5



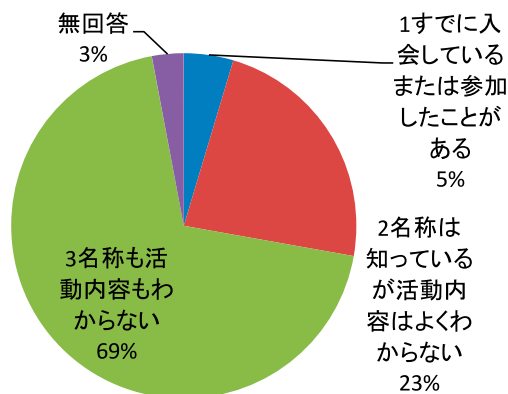
問8 あなたは、「総合型地域スポーツクラブ」について知っていますか。

1 知っている	18
2 知らない	222
3 名称だけは聞いたことがある	56



問9 あなたは、平成24年に創設した「総合型地域スポーツクラブ なめがたふれあいスポーツクラブ」について知っていますか

1 すでに入会しているまたは参加したことがある	14
2 名称は知っているが活動内容はよくわからない	70
3 名称も活動内容もわからない	209
無回答	9



行方市スポーツ推進審議会

役 職	氏 名	所属団体等
会 長	西 谷 正 明	学識経験者（行政改革）
副 会 長	高 橋 方 哉	行方市体育協会会長
委 員	小 貫 正 敏	行方市スポーツ推進委員会会長
委 員	川 島 信 義	行方市スポーツ少年団
委 員	幡 谷 栄	行方市教育会会長（武田小校長）
委 員	須 貝 恵美子	なめがたふれあいスポーツクラブ マネージャー
委 員	藤 崎 貴 英	学識経験者（幼児スポーツ） 北浦こども園園長
委 員	島 田 昌 和	学識経験者（スポーツ指導者）
委 員	堀 田 好 男	地域スポーツ推進
委 員	浅 野 美寿子	地域スポーツ推進
委 員	奥 山 賢 一	地域スポーツ推進
推進計画策定 アドバイザー	日 下 裕 弘	茨城大学教育学部教授

行方市スポーツ推進計画

発行日：平成28年3月

発行：行方市教育委員会

編集：行方市スポーツ振興課

住所：行方市山田 2175

TEL：0291-35-2120

FAX：0291-35-3854

Email：name-sports@city.namegata.lg.jp

